

令和5年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる  
「共同研究班」 研究報告書

令和6年4月20日現在

研究課題名	①スラブ・ユーラシア地域と国際関係（史）・地政治		
担当者	氏名	所属機関・職	
	岩下 明裕	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授	
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	川久保 文紀	中央学院大学・教授	国際関係論、境界研究
	研究テーマ		
	テイコポリティクスの理論的彫琢：移民・難民研究と地政治からの視点		

### 研究成果の概要

本研究の研究成果は2つである。

第一に、境界研究の視角から近年の移民・難民問題の現状と課題を探ることであった。2023年9月11日から20日まで、日本貿易振興機構・アジア経済研究所の今井宏平海外研究員（トルコ外交・国際関係論）とともにトルコ共和国で移民・難民問題に関する共同調査を行った。日本とも歴史的に関係の深いトルコ共和国は、2023年に建国100周年を迎え、現地では、日本における現代トルコ研究の第一人者である今井氏による案内のもとに、日本の現役外交官やトルコの研究者に対するインタビュー調査に加えて、シリア内戦によってトルコ経由でヨーロッパへ渡ろうとする難民集住エリアでの参与観察を行った。首都アンカラでは、在トルコ日本国大使館三等書記官の藤森望氏、在ロシア日本国大使館二等書記官の篠木慎氏とも懇談し、外交・安全保障分野を中心とした日・トルコ関係や日ロ関係など、多岐にわたる意見交換を行った。また、トルコ大統領府に近接するトルコ商工会議所大学国際関係学部のBahadır Pehlivan Türk 准教授に面会した。Pehlivan Türk 准教授は、京都大学で博士号を取得されたトルコにおける日本研究の著名な研究者であり、班員の川久保が2008年にトルコ・ユーラシア戦略研究所で研究報告を行って以来の再会となったが、トルコにおける国際関係研究及び地政学の現状と課題について話をきくことができた。この共同調査では、地中海に面したトルコ第三の都市イズミールも訪問し、市内の難民集住エリアのひとつであるバスマネ地区で難民の生活実態に関する参与観察を行った。そこにはライフジャケットを売る店もあり、地中海を渡ってヨーロッパまでたどり着くことを計画する難民が現在もなお多数いることが分かった。また、今井氏の紹介によって、イズミールにあるヤシヤル大学のArıkan Açar 准教授及び Ayselın Yıldız 准教授にもインタビュー調査を行った。とくに、Yıldız 准教授は、ユネスコの国際移住委員会の議長を務めており、移民・難民研究の最新動向についてレクチャーをうけ、今後も国際学会での共同報告も視野に入れて連絡を取り合うことになり、今後の研究の進展を図るうえで有益であった。

第二に、本研究では、国境の壁を造るテイコポリティクスの推進が民主主義や権威主義などの政治体制の違いによってどのような類似性あるいは相違性が析出されるのかについて比較分析を行う予備的考察を行った。方法論的視座としては、空間とスケールを多次的に理解し、国家以外のアクターも視野に入れて考察する地政治 (geo-politics) を用いて検証した。冷戦の終焉後、ベルリンの壁が崩壊したことによってグローバル化が進展し、ボーダーレスな世界が到来するという言説が世界を席卷したが、9.11 テロ以後、グローバル化の流れに逆行するかのように世界の至るところで国境の壁 (フェンス) がつくられるようになり、国境管理が強化されるようになった。これらの現象は、ユーラシア、中東、北米、ヨーロッパ、アジアなど、広域的な地域秩序を形成するひとつの現象としても捉えられるのではないかと。本研究の遂行において、各地域の要塞化は、テイコポリティクス (teichopolitics) と呼ばれ、物理的な壁を建造するばかりではなく、国境のハイテク化によるバーチャルな壁の構築が、北米やヨーロッパを中心に進展していることも分析することができた (「国境産業複合体」の出現)。また、本研究において取り上げた地政治という考え方を踏まえれば、境界研究で出現したテイコポリティクスに新しい視点を提供するのではないかとという問いについて若干の考察を試みることができた。国家や領土を所与とせず、国家以外の様々な主体がマルチスケールで土地や空間をマネジメントする力学を理解すれば、現在の壁をつくること自体が自己目的化するテイコポリティクスの在り方にクリティカルに迫り、いわゆる固定化された主権と領土にもとづく伝統的な地政学に対しても新しい見方を提示することができたと考えている。

主な発表論文等 (雑誌論文、学会発表、図書 等) ※謝辞の有無について明記願います。

\* 研究報告 (オンライン) : 川久保文紀 「地政治から読み解くテイコポリティクス」 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター公募研究共同研究班セミナー、2024年2月26日 (月) 16:30~18:00 (謝辞なし)

\* 合評会 : 川久保文紀著『国境産業複合体—アメリカと「国境の壁」をめぐるボーダースタディーズ』(青土社、2023年) 評者: 天野尚樹 (山形大学)、著者応答: 川久保文紀 (中央学院大学)、九州国際大学、2024年3月5日 (火) 13:00~16:00 (謝辞なし)

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト (応募中の研究プロジェクトを含む)  
なし

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。